

第 8 回彦根市行政評価委員会 会議録要旨

第 8 回 彦根市行政評価委員会		
日 時	平成 27 年 2 月 23 日（月） 午後 2 時 00 分～午後 3 時 30 分	
場 所	彦根市役所 4 階 42 会議室	
出席者	委 員	別紙のとおり
	市職員	企画振興部長、企画振興部次長、企画課長、企画課職員
欠 席 委 員	島津委員、西川委員、真鍋委員	
遅 参 委 員	森委員	

【開会】

【委員会の設立について】

委員 8 人中 4 人が出席。過半数以上の出席があったため、彦根市行政評価委員会設置要綱第 6 条第 3 項の規定により会議は成立。

【第 7 回で出た委員からの質問に対する回答】

○事務局

本日の資料の説明に入る前に、前回の行政評価委員会で質問がありました市立病院前の看板について、その後どうなったのかということと、消防団の退職者への報償について募集の際に告知できないかということについて、2 件あったと思います。資料の説明の前に、この 2 件について説明させていただきます。

まず市立病院前の看板について、昨年度の行政評価委員会での経緯も合わせて説明いたします。市立病院前の看板については、管理者は「金城学区健やか金城の会」となっております。昨年度の行政評価委員会で、市立病院前の看板についてご指摘いただき、その後、都市計画課から「金城学区健やか金城の会」の会長に確認したところ、改善の方向で検討するとのことでしたが、平成 25 年度の予算では間に合わないことから、平成 26 年度の予算で対応できるように予算化するつもりだという回答をいただいております。そして、前回の行政評価委員会でまた改めて、その後どうなりましたか、ということで副委員長から確認があったところですが、再度、都市計画課から現会長へ確認したところ、

今年度末か年度初めに中央中学校の美術部に作成の依頼を予定しているとのことでした。市立病院前の看板については、このように回答をいただいております。

もう1件、消防団員の退職者報償については、前回の行政評価委員会で「永年勤続した消防団員に支払う退職者報償を消防団員の勧誘時にしっかりと周知し、消防団員の減少を食い止めることはできないか。」と質問をいただきました。消防総務課に問い合わせしたところ、消防団員に支払う退職者報償を消防団員の勧誘の際にしっかりと周知するべきだと考えており、各分団においても消防団員を募集しているが、今後、募集時には、その旨を告知していただくよう各分団にも依頼すると消防総務課から回答いただいております。

【資料の説明】

事務局より本日の資料の説明。

【362 消防体制の充実の総括評価のふりかえり】

○事務局

362「消防体制の充実について」は、前回、消防団員等の各種組織のあり方について指摘があったところでございます。もともとの表記では、「継続して人員の確保に務めることが必要です。」としておりましたが、今回、「働き方の多様化や意識の変化の中で、募集の方法や組織そのもののあり方を見直す必要があります。」と踏み込んだ形での表現としております。

○委員長

はい、ありがとうございます。

ただ今事務局からご説明いただきましたけれども、これにつきましてご意見とかご質問等ございましたら、ご自由にご発言をお願いいたします。いかがでしょうか。

踏み込んだということは、見直しするということですね。

○事務局

はい。

○委員長

どうでしょうか。よろしいですか。特にないようでございますので、これをもちまして委員会の評価とさせていただきます。ありがとうございます。

総括評価は事務局案のとおり

【311 人権尊重のまちづくりの推進の総括評価のふりかえり】

○事務局

311の「人権尊重のまちづくりの推進」については、具体的な事業名をあげたほうが、どの事業を指摘しているのかがわかりやすいという指摘がありましたので、委員長が総括評価に記載された「市民人権啓発推進事業」と「地区別人権教育研究集会」、「地域交流推進事業」、「WAっとねすグラウンドゴルフ大会開催事業」、この4事業を具体的な事業として今回上げております。

○委員長

ただ今ご説明ございましたけれども、具体的な事業名が書かれていないということで、それにつきまして具体的に表記したというところがございますが、この点につきましていかがでしょうか。ほかにこれは見直すべきだというものがございましたら、ご指摘いただきたいと思います。よろしいでしょうか。ないようでございますので、これをもちまして委員会の評価とさせていただきます。ありがとうございます。

総括評価については事務局案のとおり

【341 支え合いのまちづくりの推進の総括評価のふりかえり】

○事務局

341の「支え合いのまちづくりの推進」については、もともとは「地域福祉活動計画」に関して、「努力・工夫を求める点」に挙げておりましたが、民生委員についても指摘が必要だということでしたので、「民生委員が地域から安定的に選任されるよう市民への啓発方法など、従来の方法からの見直しが必要です。」と努力・工夫を求める点に1点つけ加えております。

○委員長

民生委員についてつけ加えたということがございますが、これにつきましてご意見がございましたらお願いします。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。では、ないようでございますので、これにつきまして委員会の評価とさせていただきます。ありがとうございます。

総括評価については事務局案のとおり

【343 高齢者支援の推進】

○事務局

343「高齢者支援の推進」については、前回の委員会で委員が出していただいた「努力・工夫を求める点」の評価を参考に修正したほうが良いということでした。委員は前回、今回と欠席しておりますが、委員の意見を中心に今回作成しております。

○委員長

総括評価の「努力・工夫を求める点」につきまして、委員が指摘されておりますところを記載されたということでございます。いかがでしょうか。特にご意見ございませんか。ないようでございますので、これをもちまして委員会の評価とさせていただきます。

ありがとうございます。

総括評価は事務局案のとおり

【345 医療保険事業の充実の総括評価】

○事務局

345「医療保険事業の充実」については、「広報について市民目線を重視した広報を見つけていただきたい。」と表記しておりましたが、こちらにつきましても、事業を具体的に明記したほうが良いとのことでしたので、評価の冒頭部分に、「特定健診の受診勧奨など健康保持増進を目的とした事業や保険料の収納率向上を目的とした事業」、このような形で今回表記しております。

○委員長

これにつきまして、今ご説明がありましたように「努力・工夫を求める点」のところにつきまして、いかがでしょうか。特にご異議ございませんか。では、ないようでございますので、これをもちまして委員会の評価とさせていただきます。ありがとうございます。

総括評価については事務局案のとおり

【351 健康づくりの推進の総括評価のふりかえり】

○事務局

351「健康づくりの推進」こちらについても具体的な事業名を表記したほうが良いということでしたので、こちらについては事務事業評価の中で、目標に達していない「健康診査の事業」と「がん検診事業」、この2つの事業を具体的な事例の代表として挙げております。

○委員長

ただ今ご説明ありましたけれども、「努力・工夫を求める点」のところにおきまして、特に目標に達していない事業につきまして具体的な事業名を2つあげたということでございます。これにつきましていかがでしょうか。

特にご意見ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

ではないようでございますので、これをもちまして委員会の評価とさせていただきます。ありがとうございます。

総括評価については事務局案のとおり

○委員長

それではこれで、全ての施策の評価は確定いたしました。この結果をもとに、外部評価結果としての作成をお願いいたしたいと思っております。

【①会議の進め方について】

○事務局

まず、会議の進め方について説明いたします。

資料については、資料「議題(2)－① 彦根市行政評価委員会の流れについて」をご覧ください。今年度の評価におきましても、昨年度と同様に、委員会開催前に事前質問を委員の皆様から提出いただきました。その後、質問に対して行政側から回答し、その回答をもって委員の皆様にも事前評価をしていただき、委員会当日の議論で評価の方向性を出していただきました。評価の確定については、例えば、第2回行政評価委員会で評価した施策は次回の第3回の行政評価委員会の冒頭に事務局から総括評価案を提出して、評価を確定いただいております。この委員会の流れについて議論いただきたいと思います。

○委員長

まずは、今年度実施しました委員会の流れにつきまして、どうしようかということがございます。特に問題等ございませんでしたでしょうか。よろしいですか。特に問題ないということでございます。

○事務局

そうしましたら、事務局から次年度に向けて議論いただきたい事項が2件あります。まず1点目は、議論というより意見になりますが、総括評価を事前に提出いただいて、当日

議論をしていただくこととなりますが、その議論当日に、各委員が出した総括評価に基づいて、その議論をできないかなということです。例えば、総括評価に記載された内容と当日の議論が少しかみ合っていないようなことがありましたので、こちらについては事務局も会議のやり方を検討する必要があると思いますが、この点だけご留意いただきたいと思えます。

もう一つは、提案になりますが、行政評価委員会の当日、冒頭の30分で総括評価のふりかえりとして、総括評価を事務局から提出しますが、なぜこのような評価にしたのかという事務局からの説明をしたほうがいいのではないかと考えております。今回議題(1)で総括評価の修正案を事務局から提出したときに、総括評価をまとめた経緯、例えば、○委員の意見を考慮しました、当日の議論を中心にまとめました等、一言添えて事務局から説明したほうが、議論しやすいのではないかとお思いますので、次年度以降の会議の進め方として提案させていただきます。

○委員長

事務局から2点提案等ございましたけども、まず1点目は、総括評価に基づいて意見交換、議論していただきたいということでございます。これは、総括評価を事務局が作成する際、議論を踏まえて書きこむための前段として必要ということ。2点目は、総括評価については、事務局から説明をいただいた後で議論をするというように方法を変えたいということでございますが、この2点につきましてご意見等ございましたら自由にお願ひいたします。

○委員

2点目はそのとおりにしていただきたいと思えます。1点目の、今おっしゃられていることと言えば、我々が議論してレコーダーに残っている内容、あるいはそれぞれ評価に書いてあることを、最後まとめていただくときに、総括評価に反映する議論が見つげづらいと、事務局側がまとめる際に難しかったというようなことでしょうか。

○事務局

そうですね。出していただきました総括評価をもとに議論していただきます。その議論をもって事務局で総括評価案を作成しますが、会議録を見て、総括評価を見たときに、果たしてどっちを優先させるべきなのかというところによく苦心したところがありましたので、総括評価と当日の議論が似た内容ですと、両方の内容に沿って進めていけばいいのですけれども、ちょっと総括評価と当日の議論が方向性が違うことになった場合に、どちら

を考慮していいのかわからなかったもので、一応ご留意いただきたいなということです。

○委員

僕自身の感覚では、自分で読んで、自分で考えた総括評価と、各委員さんが出てきた評価に乗って話をする際、その自分はこの評価をされていて、事前評価として書いたけれども、委員会の中は、自分はこういう意見ですがどうですか、というよりは、意見を交流する中で、その都度何か思ったことを私たちも言ってしまうようなところが多分あるのかなという気がします。どちらももちろん重要だという意味では、もう少し我々が最後の総括評価をまとめる際、もう少し論点といいますか、今日こういう議論したということが事務局に伝わるように整理をすれば、そこは少し解消するのでしょうか。自分が見えてなかったところの議論が出てきたときには、意見として何か言っておこうと考えたり、自分が総括評価でこう評価したけど、ほかの委員さんの評価や考えを聞くと、自分の評価が検討違いだったかなと思うことや、今出た意見のほうが言っていることがわかりやすいかなと思うことがよくあります。その自分が書いたのでこうですとなると、議論が狭まる気が今聞いて思いました。できればここで自由な話をするというスタンスは残していただきたいと思います。議論がその総括評価を踏まえて書いてある、総括評価を踏まえてもう少し方向性として、ここはよし、ここはもうちょっとだねっていう議論を事務局が後で議事録を起こしていただくときにも、この事業に関してこういうご意見が出ていることが分かっていたら、問題が解消するのであれば、そういう流れのほうが僕はいいかなと思いますが、いかがでしょうか。

○事務局

「評価できる点」、「努力・工夫を求める点」を事前を書いていただいて、当日議論いただきますが、要は着地点をどこに置けばいいのかということが、具体的に着地点へ向かっていくというようなことを前提に、議論をお願いしたいということです。

○委員

言いつ放しで、それが評価として良いと言ってくれているのか、もっと頑張れといっているのか議論が分からないまま終わってしまっている施策があったということですね。

○事務局

今言っているように、ほかの委員さんが質問していることが、自分が思っていたことと、観点が違うなと考えられることもあると思います。討論をそれだけにしてく

ださいと限定するものではありませんので。

○委員長

他にいかがでしょうか。

○委員

議論のときには、言われたように自分の考えだけでは内容が理解できないことも結構ありますし、評価点も訂正しなければならないことも出てきますので、やはり議論は議論で皆さんと交流してよい方向へ進む上で、意見交換をしていける場所として欲しいと思います。また市の担当者の方にも書面だけでなく、書面に表れてきてない部分を聞きたい場合もありますし、その議論を基に自分たちが出した評価の内容が変わることもありますので、それを全部総括評価に委員が思っていることを並べるとするのは難しいことです。今回ちょっと具体的にしてくださいという事務局の要望があったので、大変な思いをされていると思うのですが、バランスがうまく取れないようでしたら、議論の内容を箇条書きに総括評価の下にでも入れてもらうとか、何かそういう私たちが議論したテーマが一つでも二つでも挙げていただければと思います。

○事務局

資料議題(2)-⑤-2のところを見ていただきたいのですが、外部評価結果報告書の総括評価の欄で、「評価できる点」、「努力・工夫を求める点」を評価していただいた内容をここに記入していますが、「会議における意見等」ということで、この施策に対して建設的な意見が出たものですか、委員の皆さんが説明したのが言いつ放しになって、行政側から回答できなかった部分を載せております。

○委員長

他にいかがでしょうか。

私自身も同じような経験をしまして、ただ一つ方向性として考えられるのは、皆さん方からいろんなご質問とかあるいは疑問点とか出されると思いますので、そのあたり、特にこれは担当課としても重要な指摘がありましたら、事務局から前もって会議のときに示していただけると、集中して議論ができ、より建設的にといますか効率的にできないかと思います。また、それ以外、それにリンクしてどんな問題があるのか議論できます。ただ事務局のほうで事業を絞ると問題があるかもしれませんが、ある程度まとめて、示していただいたほうがやりやすいのかなという思いはしています。

各委員がそれぞれの目線、視点で問題を指摘し、それを一括してまとめていただくのは

事務局なので、こういう意見が多いとか、こういう意見は重要だというのは、事務局としてはわからないと思いますが。

○委員

委員長が言われたポイントを当ててもらっても確かにそうかもわかりませんが、他の委員の意見を聞いていると、意見以外のところも聞きたいことが必ず出てくると思います。言いつ放しになってしまったら、解決できずに言いつ放しとなる箇所をどうするかですね。限られた時間の中で会議しますので、時間で区切るのではなく、言いつ放しにしない。回答をもらうようにやっぱり返してもらおうという形にしたらどうでしょうか。

○委員長

それからもう1点。議論した後事務局のほうで、これはぜひとも載せたいというものがあればここにに入れていただいて、委員会の了解をいただいた上で、作成できるように的を絞ったほうが、総括評価を作成しやすいと思います。

○副委員長

実際各部署で、話題となったことはありますか。例えば、部長会議等で健康福祉に関しては、行政評価委員会で話が出ていたという話になり、検討してもらいたい事業があれば挙げていただいたら、委員としても集中的に議論ができます。

○企画振興部長

部長会議も、前に比べれば、いろいろ活発な意見が出ているようにはなりましたが、ピンポイントにまとめるというケースがなく、一部の施策について議論するというのは今のところは、私が記憶している限りでは無かったと思います。

○委員

会議の最後のところで、議論の中で評価できる点として出た意見や指摘しておきたい点を議論の中で我々も少し意識的に話しておけば、拾ってもらえるということですよ。今日の議論でここは注意して進めてもらいたいという論点、議論はこういうところだったということを伝え、我々が何かしら発言をして残しておいていただければ、最終的に事務局でまとめるときに、最初に事前に出してもらった評価と委員会で出た新しい評価であっても、それが、これはプラス面の評価やマイナス面でここを指摘されているということが分かります。会議録を全部聞いてもらわないとわからないと大変だと思うので、最後に少し我々も意識的にその2点を発言してほしいなということのような感じですよ。

○委員

総括評価の事務局案はまず、私たちの評価と一緒に文字として出てくるので、だからそれを踏まえてここで中にディスカッションしたことも含めてまとめられると思います。

○委員

確かにそうですが、総括評価は、議論した次の委員会の冒頭に出てきます。そうすると、我々も正直議論のときの熱意がないので。

○委員

ある程度当日に議論してしまえばどうですか。

○委員

当日の議論のときに我々ちょっと意識的に今日のこの評価の議論の中で、こういう意見が出たっていうことを、出しておいてあげないと、次回になると僕らも忘れていきますし、事務局もなかなかそれを拾うことは難しいと思います。

○委員

事前に事務局が案を出されているので、当日は案を基に議論できるのではないのでしょうか。

○事務局

例えば、今日311の議論をしていただく時は、総括評価の事務局案はまだ出ていません。

○委員

出てないですか。

○委員

その議論をテープで聞いてもらって一生懸命文字起こしをしてもらっているのだと思います。我々としても、ちょっと議論がひと段落したときに、今の議論の中で、「評価できる点」と「努力・工夫を求める点」の2つに関して、この議論の中でしておくことが必要なのではないのでしょうか。

○委員

ずれがどうしても出てくるわけですね。事前評価の段階で、ある程度皆さんのこの委員さんの評価が出てきますので、事務局である程度言葉を拾っていただき、総括評価案を出していただき、議論してもどうでしょうか。

○委員

何となくここで我々が話をしている、個人の評価というところがすごく強くて、全体

の評価をという意識が、その段階では希薄だと思います。次の回に総括評価案を出していただいたときに、「あっこういうふうにまとめていただいている」と思うので、意識として、その評価を出してきて、この委員会の場でまとめられる際、今日話した内容が一番大事なところについて、少しでも視点を残すと、もう少しまとまりや方向性が出るかなと思います。

○委員

どうしても次回に資料を持ってきてないので、前回の総括評価はこうでしたとしても、その期間が空くと、記憶が薄らいでしまいます。

○委員長

方向性としては今出ていますけれども、当日ある程度わかるポイントだけについては、議論の最後にふりかえりに近いような形をまとめて、事務局に参考にさせていただいて、総括評価の案を作ってもらおうということによろしいですか。

それは皆さん方が意識的に、これはポイントになるところを発言いただくということになりますけれども。

○委員

どうしても事務局が一番お困りなので、こうしてほしいと言っていた方がいいのではないのでしょうか。

○事務局

項目についての評価は点数を出していただいていますので、自動的に計算すると出てきますが、事務局が困っているのは、総括評価の中で、どの委員さんの意見を踏まえて総括評価としたらいいんだろうかということを議論していただいています。結果としてその会議録を起こしている中で、なかなか見えにくいところがあります。どの委員さんの評価を評価できる点にしましょうかとか、あるいは委員会の中で議論していただいて「評価できる点」、「努力・工夫を求める点」をどれにしましょうかということを一定定めていただくと、総括評価がまとめやすいので、結論としてまでは結構ですが、ある程度まとめていただきたいということです。

○委員

ちょっと投げっ放しにし過ぎというところですよ。

○委員長

事務局のほうからご提案いただきましたけれども、それはここで決めるということによ

ろしいでしょうか。では、その方向性で、これにつきましては進めていくということで確認をさせていただきたいと思います。

【②資料の全般について】

○事務局

資料の全般については資料の「議題(2)－②」、2枚あります。「外部評価事前質問意見用紙(委員用)」および「外部評価チェック表」をご覧いただきたいと思います。まず今回載せていませんが、まず第1回目に全ての「施策評価調書」と「事務事業評価表」を事務局から委員さんのほうに提出しております。

委員会当日については、総括評価の事務局案を記載した「前回評価」と当日の委員会で評価する施策の「事前評価集計表」、各項目を評価していただいた際に付していただいた「評価理由」と「施策に対する意見」とそれと委員会開催前にやりとりしました「事前質問回答一覧」を配布しております。

なお、総括評価については、本年度より「評価できる点」と「努力・工夫を求める点」の2点を設け、委員会が施策に対してどのような評価をしているかが行政側、委員さん、市民の方にもわかりやすくなるよう工夫しているところでございます。この資料についてご意見をいただきたいと思います。

○委員長

はい、ありがとうございます。ただ今ご説明ございましたけども、これにつきましてご意見ございましたらよろしくお願いをします。よろしいでしょうか。意見ございませんでしょうか。ではないようでございますので、このとおりとさせていただきます。

【③施策の評価項目、評価の内容について】

○事務局

委員の年間作業行程、作業量については、資料「議題(2)－③ 平成26年度行政評価委員会評価施策スケジュール」をご覧いただきたいと思います。

昨年度より、総合計画に記載される全51施策を3年かけて評価していただくこととなっており、今年度は、全6章のうち、第3章、第6章の19施策を実質4回、今回のスケジュール表で言いますと第2回と第3回、第4回と第6回と、この4回の委員会で評価していただきました。毎月1回程度の開催で、1回の開催には大体4～5施策ほどを評価し

ていただいております。

委員会の開催にあたっては、委員の皆様から事前質問いただき、1週間程度で回答いたしまして、委員会の2日ほど前までに委員の皆様から事務局側に事前評価を提出いただいています。これらの作業量について議論をいただきたいと思います。

○委員長

はい、ありがとうございます。

今年1年間作業していただきまして、いろいろと思いがあろうかと思いますが、3年のローリングで評価を出してございまして、51施策を3年間で評価するというので、今年度は19施策を4回の委員会で行ったということでございます。来年度は、いろいろと変更がありそうですか。それを踏まえて議論いたしましょうか。

○事務局

まず今年はどうだったか議論いただきたいと思います。

○委員長

今年のスケジュールを見ますと、5つの施策を評価したのが3回、それから4施策が1回ということでございましたが、作業量等いかがだったでしょうか。

○委員

結構忙しかったような気がしますが、皆さんはどうだったでしょう。事務局の方もそうだと思いますけれども。会議を終わって、すぐにまた質問や評価を出さないといけないスケジュールとなっていた時がありました。事務局が大変だったのではないかなと思うんですけれども。

○事務局

作業としては、評価のまとめと照会確認、各課に照会する等ですので、委員さんの中で、会議が終わった後にまた次の施策の質問を考えることになっていましたので、各委員会の開催の間隔が厳しかったのではないかと思ったのですが、どうだったでしょうか。

○委員長

大体、1カ月につき1回のペースで今年度は組んでいただいておりますが、作業量としてどうだったでしょうか。

○委員

与えられた作業量がある中で、工夫はどうしようもありません。1回目のスタートが少しでも早くなって1個ずつの間隔をあけるとかいう以外工夫のしようがなかったという気

がします。しかし、現在のスケジュールとして、事務局側の準備等の問題で第1回目の始まりが、今年のような形が精一杯だったとするならば、もう止むを得ないと思いますので、特に反省というよりは、もう少し5月、6月に1回目を開催することが出来ると、1個ずつの間隔を空けられます。1回の作業量はさっきも言ったように決まっていますので、これが多いと言おうが少ないと言おうが、対応しないとイケないので、これは別に特に我々からはありません。

○委員長

6回以上経験した人間としては、ちょっと6回越えると、6回というより6つの施策を超えると、本当に大変です。

○事務局

施策は5つぐらいがやっぱり限界ですか。

○委員

そうですね。しっかりと事務事業評価表を読むと、相当な時間を要しますので、しかもコメント書かないとイケないということになってくると、さらに時間がかかります。私はそれでも2日、3日だけこれに費やしてしまいますので、少なくとも皆さん方はどうかわかりませんが、委員会でしっかり議論しようとしても、議論が薄くなります。中身を濃くしようと思うと、多くの施策を一度にするのもどうかという気がしております。そのあたりの兼ね合いがあるかと思えますけれども、作業量としては、私はこれでいいのかなという思いもしておりますが。

皆さん忌憚ないご意見を、正直なところをおっしゃっていただきたいと思えます。

○委員

先ほど十分にディスカッションができないまま次の施策に行くという話が出てきている以上は、現状のスケジュールが限度かと思えます。この回数で行政側もいろいろと行事が出てきたりして、大変な思いもされているんですけども、先ほど委員さんの言われたように、もう少し早く開催していただくと余裕もあると思えます。

○事務局

どうしても6月、9月、12月、3月に市議会があります。この期間については、私どもも議会の担当になり、ずっと日程が埋まりますので、予定から外していくと、どうしても残る日が限られて、その隙間で開催する必要があります。確かに今年度はスタートが遅かったので、しわ寄せがありました。また、彦根市総合計画の後期基本計画の策定作業に

入っております、そのしわ寄せがちょっと全部こちらへきてしまった感がありますね。

○副委員長

来年度は何施策やるのですか。

○事務局

来年は残った分を実施します。去年は15施策していただきまして、今年は19施策、来年度になると17施策をしていただきます。来年は第4章の生涯学習・産業と第5章の次世代育成・市民交流の分野が残っています。

委員さんの皆さんの意見としては、大体作業が詰まり過ぎだったという部分と、それと1回に審議いただくのは大体5施策ぐらいが限界だということによろしいですね。

来年度はできれば5月中旬に第1回をして、7月から実際の施策の議論をしていただくというスケジュールが望ましいというようなことで検討させていただきます。

○委員長

それでは、来年度はちょっと早めるという、スタートを早めるということでございます。それでは7月で大体実質的に審議ができるということで、予定ではそういうことです。

○事務局

第1回目の行政評価委員会で全事業の事務事業評価表と施策評価調書をお渡ししようと思うと、どうしても決算値等が固まりませんので、どうしても6月以降にずれ込んでしまいます。

それで、第1回行政評価委員会は施策評価調書や事務事業評価表は無しとして、今まで委員長さんの選出や年度の方針、スケジュール等を決定していただく回とすると、前倒しでの開催が可能となります。

○委員

すみません、我々別に早くしろと言うつもりもなく、事務局の方がさぼっていると思っ
ていません。しっかり準備していただいて会議をしていただければいいと思います。

日程についての議論と言われても、前倒しするぐらいしか方法がないだろうなというこ
とで、前倒ししろ、ということではありません。

どのようにすれば開催できるのかを検討いただければ、今ここで5月に決定とは思っ
ていませんので、すみませんをお願いします。

○委員

最初にいただく資料は、51施策全部でしょうか。

○事務局

5 1 施策全部の施策評価調書と事務事業評価表をお渡ししています。

○委員

使っていない資料も手元に溜まってきて、該当する年度になると、各年度を一緒に持ってきて、比べてみたり、質問を書いたりしていますが、必要なのでしょうか。

○事務局

去年から分割して評価していますので、例えば、今年は第3章人権・安全・福祉を対象としていましたが、これが例えば来年度どうなっているかというのが、来年はもう違う分野を評価しているので、わからなくなる状況となります。

○委員

資料づくりが本当に全部必要でなければ、必要な議題に挙がっている施策だけでいいのかもしれないと勝手に思いますが。

○事務局

こちらも内部評価ということで、内部評価の進捗管理として全部作っておりまして、それを全部渡しています。来年4章と5章だけ必要ということであれば、第4章と5章だけをお渡しするという事は可能です。

○委員

私はそう思っていますが、皆さんはどうですか。

○事務局

内部評価としては全ての事業を職員はちゃんとチェックをしています。その中のどれかを外部評価をしていただいているという形式ですね。

○委員

皆さんはどのようにお使いですか。

○委員

見ずに置いてあるというのが多いですけど、別に要らないということはありません。要らないという考えも個人的にはないです。いただけるものは肅々といただいています。必要な資料をいただければいいと思います。

○委員長

できるだけ事務局も負担にならないようにいただければいいと思います。

○委員長

来年度はちょっとこれを含めまして、今話が出ておりましたけど、委員さん方のご意見として、大体、今年度と同じくらいのスケジュールということで、事務局の負担にならないように、ご都合のよろしいようにということでよろしく願いできればと思います。それでよろしいでしょうか。ありがとうございます。

【④施策の評価項目、評価内容】

○事務局

施策の評価項目、評価の内容については、資料「議題(2)－④ 委員会としての評価」をごらんいただきたいと思います。

現在、「有効性」「必要性」「効率性」「妥当性」について委員の皆様から、20、15、5、1点のこの4段階で評価をしていただいております。ただ委員会の評価としては、昨年度から、「高い」「やや高い」「やや低い」「低い」の4段階の評価から、ハードルを厳しくして、さらに「極めて低い」この項目を追加して、5段階の評価としています。この評価項目や点数について議論をいただきたいなと思います。一応念のために参考として、平成25年度と26年度の外部評価結果の内訳という形で資料をつけております。

○委員長

はい。ただ今事務局からご説明いただきましたけれども、5段階評価につきましていかがでしょうか。

皆さん方もお気づきかと思いますが、「有効性」、「必要性」これは恐らく全ての施策で「高い」とか「やや高い」という評価がずっと出ておりますけれども、これは総合計画の中で位置づけられているので、これに対して「そうではない」という評価をつけるわけにはいかないということもございます。結果的には「効率性」、「妥当性」のところでは実質的な評価をということになるかと思いますが、いくつかの施策において「低い」、「やや低い」という評価が出てくるということになるかと思いますが、こういう5段階評価についてどうでしょうかということでございます。

○委員

5段階はこのままでいいと思いますが、去年は別に厳しかったわけではないですね。

○委員

評価している事業そのものが違うのでやむを得ないと思います。

○委員

もちろんそうですけれども、意識としてはそれほど強くはなかったと思います。

○委員

基本的には3年間、同じ評価基準でしたほうが良いと思うので、特に今ここで変更することはしないほうが良いと思います。来年度はもう一度同じ評価基準で評価をしたほうが、全体の評価としても妥当性があるのかなという気はしています。

○委員長

そういうご意見でございますが。

○事務局

説明いたしますと、4段階評価のときに、平成24年度の4段階の評価のときは、「高い」と「やや低い」は大体90%近く肯定的な評価をいただいでいて、残りの10%については「やや低い」の評価でした。

今回5段階評価にしまして、大体20%前後、こちらが「やや低い」評価、全体として低い評価になりまして、80%は「やや高い」か「高い」どちらかということですので、若干ではありますけれども、5段階評価にしたことで、委員の皆様が厳しく評価いただいでいるのかなと思っております。

○委員

点数は違いますよね。基準のレベルが違いますけれども、多分見かけはきつくなっている。

○委員

評価が細分化されたという意味合いで捉えていただいてもいいと思います。25年度から始まりましたが、議論していることが、急に難しくなった、厳しくなったという印象はありません。見ていただくときに少し細分化されて、少しでも気になる点があったときに、「やや低い」という評価が見えやすくなったという意味では、確か委員長が点数の基準を変えようとしていただいた意図が出てきたのかなと思います。

○委員

評価委員としての細かい評価を出すにはということで5段階にしましたので、成果が出てきていると思います。実際に5点や1点をつけた際、ここで議論すると、勘違いしていたなという部分も出てきますので、本当に評価が低いになるところはないと思います。5段階のままでいいと思います。

○委員

来年度も5段階評価ということでよろしいでしょうか。では、来年度もこれでということとします。再来年度また一括して全施策の評価ですか。

○事務局

そうなります。

○委員長

そうなりますと、この評価でないと整合性がとれなくなってしまうと思います。

○事務局

そうですね、はい。

○委員長

ちょっと参考までに来年と再来年度は大体ここらあたりでいくということですね。

○事務局

はい。

○委員長

はい、ありがとうございます。

【⑤今年度新たに設けた会議について】

○事務局

これは資料「議題(2)－⑤－1 今年度から新たに設けた会議について」と「議題(2)－⑤－2 行政評価結果に対する施策・事業への反映状況について」をご覧いただきたいと思います。

まずは「議題(2)－⑤－1 今年度新たに設けた会議について」をご覧いただきたいと思います。

昨年度の委員会の議論で、昨年平成25年度から総合計画を3年間かけて評価いただくということでしたので、昨年度の評価で言い放しとなる恐れがあるということで、昨年度評価した施策で低い評価を受けた施策の対応状況を確認するための会議を、第5回行政評価委員会で実施したところでございます。

今言いました「低い」評価とした施策については、評価項目のうち、いずれかの項目で「低い」評価を受けた施策または、「やや低い」の項目を2項目以上受けた施策を対象としております。なお、この当日使用する資料といたしましては、資料「議題(2)－⑤－2 行政評価結果に対する施策・事業への反映状況について」をご覧いただきたいと思います。

この資料については、上から「総括評価」、「外部評価結果報告書」については、報告書から意見を抽出し、次に記載されています「その他委員会での意見・提案」は会議録から、当日の委員会で委員から出た意見のうち、言い放しになっていた部分を抜き出し、それらの意見に施策・事業の担当課から、「委員の意見に対する取り組みや予算措置予定」および、「低い評価項目に対する意見」として回答したものを委員会の資料としておりました。この会議の運営および資料について議論いただきたいと思います。

○委員

はい、ありがとうございます。

それでは、まず昨年度ふりかえりの会議に関しまして、特に運営方法あるいは会議資料等につきましてご意見ございましたらよろしく願いをいたします。

○委員

すみません。僕出られなかった回だったと思います。当日の会議の議論といいますか、そのもう一度出てきていただいた担当課との委員会の協議は、かみ合って議論したのでしょうか。

○委員長

かなり議論はしたと思います。

○委員

こちらが出した評価に対する対応を、もう一度聞かせていただくというのは大事な回だと思うので、ぜひとも続けたほうがいいと思います。委員会から行政側へ投げかけたものと、行政側がそれに対して感じとっていただいて、次こういうことを考えていますということが、うまくかみ合っていたのであれば、ぜひ継続したらいいと思います。ただ、当日の雰囲気が分からなかったので、意見がしづらいのですが、当日出席された委員の方々はどうお感じになりましたか。

○委員長

結構意見というか我々も質問しましたし、担当課からもしっかり回答をいただいたと思います。

○事務局

委員の意見に対する回答もしっかりしていたのかなと思います。資料「議題(2)－⑥－2 昨年度評価施策における対応状況確認会議における委員からの意見・提案」になりますが、会議で委員の皆様から出していただいた意見や提案をまとめた資料があります。こ

の資料は外部評価結果報告書にまとめますので、資料としてつけております。

○副委員長

資料「議題(2)－⑤－2 行政評価結果に対する施策・事業への反映状況について」は初めて見ますが。

○委員

横向きの綴じた資料がありましたよね。

○副委員長

これはここで出た意見をまとめて、各部署へもっていかれた。

○事務局

平成25年度の行政評価結果報告書とその中で出た意見と、平成25年度の会議録から行政評価委員意見等ということで意見を抜き出した調書を事務局で準備し、各施策の担当課にこういうふうの評価、意見がありますが、各施策担当課の意見等書いてくださいということで書いていただいて、その資料をもとに当日委員会を開いております。

○委員

すみません。「議題(2)－⑥－2 昨年度評価施策における対応状況確認会議における委員からの意見・提案」も報告書に載るとのことですね。いいと思いますが、会議の趣旨としては、委員会が一旦した評価に対して、彦根市側がどういう対応を考えたかということが、今回の趣旨としては重要だと思います。

○事務局(堀井)

資料「議題(2)－⑤－2 行政評価結果に対する施策・事業への反映状況」についても外部評価結果報告書に載せます。さらにそこで出た意見も載せます。

○委員

それを踏まえてまたこういうご意見も出たということですね。

○事務局

その会議の主な意見みたいなものが資料「議題(2)－⑥－2 昨年度評価施策における対応状況確認会議における委員からの意見・提案」ということです。

○委員

資料「議題(2)－⑤－2 行政評価結果に対する施策・事業への反映状況」のほうが僕は重要だと思います。

○事務局

それだけだと対応状況の確認の段階だけで終わってしまいますので、当日の意見はど
うやったかというのを、資料「議題(2)－⑥－2 昨年度評価施策における対応状況確認
会議における委員からの意見・提案」で補おうという形です。

○委員

こういう意見が去年出て、今年にこのようにしました、ということが彦根市として出さ
ないといけない資料だと思います。それに対しての委員の意見も重要で、載せていただく
ことも大事だと思いますが、彦根市としてちゃんと対応していることが一番重要だと思う
ので、わかるように載せていただきたいと思います。

○委員長

私も適度な緊張関係は必要だと思います。

これにつきましてはよろしいでしょうか。また来年度も何らかの形でやっていきたいと
思います。総括評価の調整のための会議について説明をお願いします。

○事務局

今年度の前回の第7回の行政評価委員会で議論いただきましたが、総括評価を調整する
ための会議といたしまして、今年度の外部評価結果のうち、低い評価を受けた施策、こち
らについて来年度の行政評価委員会でも振り返るということで、総括評価の修正を行うこ
ととしておりました。こちらについて意見をいただきたいと思います

○委員長

それでは総括評価の調整の会議につきまして、ご意見等ございましたらよろしくお願
いいたします。

○委員

昨年もしていましたか。

○事務局

今年度からです。

○委員長

いかがでしょうか。特に問題等はなかったでしょうか。じゃ、次年度以降もこれは会議
を設けるということによろしいでしょうか。

【⑥外部評価結果報告書】

○事務局

それでは、議題⑥外部評価結果報告書について、まず資料「議題(2)－⑥－1 外部評

価結果報告書の構成」と「議題(2)-⑥-2 昨年度評価施策における対応状況確認会議における委員からの意見・提案」、「議題(2)-⑥-3 行政評価委員会の評価例」をご覧いただきたいと思います。

まず、現在、内部評価結果報告書については、資料「議題(2)-⑥-1 外部評価結果報告書の構成」の構成を考えております。昨年度と基本的には同ですが、先ほども議論いたしました、対応状況を確認するための会議を設けましたので、資料「議題(2)-⑤-2 行政評価結果に対する施策・事業への反映状況について」と「議題(2)-⑥-2 昨年度評価施策における対応状況確認会議における委員からの意見・提案」の掲載を予定しております。

また、その行政評価委員会のそれぞれの施策の評価については、資料「議題(2)-⑥-3 行政評価委員会の評価例」をご覧いただきたいと思います。こちらも例年のとおりまとめる予定をしております。

外部評価結果報告書につきましては、事務局において今後作業を進めていきますが、案ができましたら皆様にメールや郵送で送らせていただいて、ご意見等を伺った上で完成、配付ということを考えております。

○委員長

はい、ありがとうございます。これから事務局で作業をしていただくということでございますけれども、これにつきましてご意見等ございましたらお願いいたします。

○委員

従来からいただいている赤い表紙の冊子になる、載せる順番はこういう順番になるということでしょうか。

○事務局

順番としては、資料「議題(2)-⑥-1 外部評価結果報告書の構成」を見ていただきたいと思いますが、評価結果は「6 評価結果」から始まります。ここでは第3章の6章の評価結果と、施策評価調書を載せまして、次に対応状況を確認するための会議の資料を載せます。その後に、今年度評価の対象外となった1章と2章と4章と5章とこちらについての施策評価調書、こちらを載せて外部評価結果報告書としております。

○委員長

よろしいでしょうか。他にご意見ございませんでしょうか。では、ないようでございますのでこのような形で作業をお願いいたしたいと思います。

【⑦その他】

○委員長

大体1つの施策を30分ぐらいで審議していただいていると思いますが、このぐらいの時間でよろしいでしょうか。余り間延びしてもないですし、余り短過ぎてもいません、30分というのを目途にしていますが、そのぐらいでよろしいでしょうか。

あと開始時間とかどうでしょうか。先生方、不都合なところどうでしょうか。何でも結構ですからこの機会にこれは言っておきたいということがございましたらどうぞ。

○委員

皆さんの評価内容で、お聞きしたいなと思うときにいらっしゃらないと、それをもとにして発展的なディスカッションができないところがちょっと残念だなと思うところがありまして、特に評価点が低い方の意見はやっぱり聞かせていただかないといけないかなと思います。お仕事がおありですし、都合がつかない場合に事前に低い評価点の理由も入れていただくと、くみ取りやすいかなと思います。余分な仕事をとられると、それはそれで大変なことになります。

○委員

できる限り総括評価でそれぞれの項目に対する理由は書くところがあるので、自分なりには低い点をつけた場合はそこに何か書いておこうという意識はしていました。基本的には全部の施策を細かく評価するのは難しかったので、自分なりに低いところだけは少し何で低かったかという理由は書くようにしました。皆さんと一緒に、理由をつけておいていただければ解消するのかなという気がします。

○委員長

随分前の申し合わせでしたが、特に点数の低いところは、できるだけコメントを書いていただくとなっていたと思います。もちろんお仕事の関係とか時間の関係とかでなかなか難しいところがあるかもしれません。できるだけお書きいただければこの会議ももう少し参考にして議論できるところはありますし、お願いできないかなと思いますが、あくまでも申し合わせでそういうことになっているということでよろしく願いたいと思います。他によろしいでしょうか。他にございませんか。

では、無いようでございますので、本日の審議はこれにて終了ということでございます。この1年間本当にどうもありがとうございました。

○事務局

委員の皆様方には長時間にわたしまして、熱心にご審議いただきましてありがとうございました。今年度の行政評価委員会につきましては、これで終了させていただきます。

最後、市長にかわりまして、企画振興部長の磯谷から一言お礼を申し上げます。

○企画振興部長

失礼いたします。今年度の最後の行政評価委員会の閉会にあたりまして、一言お礼の言葉を申し上げます。昨年度から本市の総合計画に掲げます51施策を3年間かけて評価するというので、今年度、その2年目にあたりまして委員の皆様には昨年度の第1章と第2章に続きまして、本年度は第3章と第6章の全部で19の施策および施策にかかる事業について慎重かつ熱心にご議論いただきました。貴重なご意見、ご提言を賜りまして、まことにありがとうございます。皆様のご労苦に対しまして、感謝を申し上げますとともに、厚くお礼を申し上げます。

また、今年度からは、昨年度に評価した施策のうち、低い評価を受けました施策について、今年度どのような対応を行ったか、また確認いただくための会議、さらには次年度にも同じようにしていただくため、総括評価の見直しとなる会議の開催など、行政評価をより実行のあるものとするため、委員の皆様には昨年度より多大なご尽力を賜ったところでございます。重ねてお礼を申し上げます。

行政評価を導入し、本市の掲げます施策の現状と課題を分析し、総合計画全体の進行管理を図りますことは効率的、効果的な行政運営を目的としたものでございますけれども、言うまでもなく、行政の内部評価だけでこれは達成できるものではございません。学識経験や民間の豊かな発想を持っておられます行政評価委員の皆様から評価をいただくことで、客観性、透明性を高め、施策の事業への展開の仕方や手法などについて課題、反省を浮き彫りにし、その中から、新たな知恵、発想また創意工夫などが生まれ、それらを施策に反映し実施していけると思っております。

こうしたプロセスは、同時に私どもの緊張感を持ち、職員として意識改革につなげることのできる誠に有意義な機会だと認識しているところでございます。

話は少し変わりますが、昨年の夏前後ぐらいだったと思うんですが、新聞等で皆様も「地方創生」という言葉を何度もお聞きになられたことと思います。昨年末には国の「総合戦略」等が示されました。今では全国の自治体が、来年度中に「地方版総合戦略」を作成することとなっております。この「地方版総合戦略」におきましても、各事業には

数値目標を設定しまして、外部からの意見や評価をいただき計画に反映するとされており、これからますます施策の検証そしてまた計画の進行管理ということの重要性が高まってくるものと考えております。

終わりになりますけれども、委員の皆様には、公私ご多忙の中、外部評価に取り組んでいただきましたこと、また全8回にわたって開催されました委員会にご尽力賜りましたことに対しまして、改めて厚くお礼を申し上げますとともに、今年度の行政評価委員会の閉会に当たりましてのお礼の言葉とさせていただきます。

皆さん1年間本当にありがとうございました。

○副委員長

お疲れさまでした。

○事務局

これもちまして、第8回彦根市行政評価委員会、平成26年度の行政評価委員会を終わらせていただきます。1年間どうもありがとうございました。

(終了)

会議録の確定	
委員長署名	大橋松行

平成26年度 第8回彦根市行政評価委員会 出席委員

(50音順)

氏名	備考
赤木 和代 (あかぎ かずよ)	淡海生涯カレッジ彦根校オブザーバー
池上 松夫 (いけがみ まつお)	(元)彦根市行政改革委員会委員
大橋 松行 (おおはし まつゆき)	滋賀県立大学 教授
森下 あおい (もりした あおい)	滋賀県立大学 教授
森 雄二郎 (もり ゆうじろう)	聖泉大学 講師